

0219

132

軍極秘

横防機密第六七號ノ一ノ二八

昭和二十年三月二十四日

横須賀防備隊戦闘詳報第七三號

昭和二十年一月二十四日 硫黄島ニ於ケル對艦對空戦闘 第七昭和丸

横須賀防備隊

四月
5
10
日送付

目次	頁
一、形勢	一
二、計畫	一
三、經過	二
四、令達報告	六
五、戰果及被害	九
六、功績	九
七、所見	十

(目次終)

掃蕩防備隊戦詳報第七三號

昭和二十年一月二十四日 硫黄島ニ於ケル對艦對空戦闘 第七 昭和丸

一 形勢

敵ハ遮ニ無ニ比島上陸作戰ヲ強行スルト共ニ整備成レル「マリヤナ」航空基地ヨリスル我ガ本土空襲モ日ヲ追ツテ頻繁トナリ特ニ本土防衛艦ニ「マリヤナ」基地攻撃ノ我ガ基地タル硫黄島ニ對スル敵ノ攻撃又熾烈ニシテ航空機ノミナラズ水上艦艇ヲ續々出動セシメ同島嶼ヘノ補給遮斷ヲ企圖シ機アラバ侵攻作戰ヲ強行スル氣配濃厚トナレリ

二 計畫

(1) 任務行動

昭和二十年一月二十一日小笠原部隊秘密第二一四三一番電ニ依リ第七昭和丸、慶南丸ハい號米山丸ヲ護衛硫黄島輸送任務ヲ被命、同日一四〇〇硫黄島ニ向テ二見港ヲ出撃ス

(2) 船團編成

三 經過

船團部隊官 第七昭和丸隊長
護衛艦 第七昭和丸、慶南丸
船 團 い號米山丸

月 日	時刻	經過	概要
一一二二	一四〇〇	船團二見港出撃	
	一五〇〇	針路南二五度西、速力七、八節、第一警戒航行隊形（い號米山丸ノ右（左）正横一杆乃至一、五杆一帯離（二番離）占位）	
一一二二	一八〇〇	之字運動十七法實施	
	二〇一八	第七昭和丸航路前方ニ怪シキ艦影三ヲ發見船團反轉シツツ敵情ヲ確ム	
	二〇四〇	怪シキ艦影ハ味方機風船ト判斷再ヒ原針航（南二五度西）ニ復シ任務續行	
	二二二四	慶南丸怪シキ艦影ヲ認メ敵艦ト判斷船團反轉（針路北二五度東）ス	
	〇二二五	敵機ノ昂光彈、第七昭和丸ノ右後方三〇〇〇米ニ認め	
一一二二	〇二〇〇	い號米山丸母島（沖港）ニ避退ノ爲分離	

〇六五〇	護衛艦「父權司」が部下連絡ノ為メ父島ニ見港ニ入港
一二〇〇	護衛艦二見港出撃、天候半晴風向北、風速三米、波浪二、展望七、氣壓七六八、氣温二三度〇
一二三〇	逆着艦單縦陣、速力十節針路南十度西トス
一三一五	父島ノ南十度ニ於テ敵哨戒機ト遭遇之下交戦（使用彈數第七昭和九八、一發二十五、一發銃四四發、慶南九八、榴砲二發）
一三三〇	敵ヲ南方ニ撃退
一五三〇	護衛艦沖港入港
一六〇〇	い號米山丸排氣管故障修理ニ從事中、完成豫定時刻二四〇〇、船體ノ出撃ヲ一日延期ノ護衛艦ハ母島警備隊指定泊地ニ錨泊ス
一二〇〇	天候晴、風向北西、風速五米、波浪一、展望七、氣壓七六八、氣温二〇度〇
一三〇五	敵哨戒機二機母島ノ周邊ヲ偵察北方ニ去ル
一四〇〇	船體母島出撃
一五三〇	針路南三〇度西、速力七、八節、第一警戒航行隊形トス
一七〇〇	敵ランキ大型機二機ノ胸撃ヲ受ク

02204

一一二四

一七三〇	艦後機視界外（南方）ニ去ル
一八〇〇	之字運動第十七法始ム
一九〇〇	第七昭和丸離漏洩シ始ム（三時間ニ約一噸）
〇一二五	鎗路南ニ變針
〇二二五	吊光彈一船艦前方ニ認ム
〇二二七	慶南丸銃撃ヲ受ケ艇尾ニ損傷アリタルモ戦闘航海ニ差支ナシ任務續行
〇五四〇	之字運動ヲ止メ第二警戒航行隊形トス
〇七〇〇	列ヲ解ク
〇七一五	い號米山丸硫黄島南泊地着現地揚格作業指揮官ノ命ヲ承ケ揚格開始護衛ハ哨區ヲ定メ同船ノ泊地對潛哨戒實施
〇九〇〇	第七昭和丸離漏洩増大セル爲應急修理ノ爲指針山ノ八五度〇、七五杆ニ投錨修理ニ從事シツツイ號米山丸ノ對潛哨戒實施
一〇二〇	激水上磯艇硫黄島ニ來襲ス
一〇四五	第七昭和丸右情報ヲ了解シ總員配置ニ就キ警戒ヲ嚴ニス
一一〇〇	艦修理中止復舊ヲ命ズ

二一四

一一一〇	敵大型機編隊（延約五十機五回二亘リ）波狀的ニ硫黄島飛行場及泊地附近ヲ爆撃ス
一二〇〇	天候半晴、風向南西、風速六米、波浪三、展望七、氣壓七六七、氣温二八度〇
一三三〇	敵艦隊硫黄島及泊地附近ニ對シ砲撃開始
一三四〇	い號米山丸擱坐ス
一三四八	敵艦隊第七昭和丸ノ視界内ニ入ル
一三五〇	第七昭和丸全兵力ヲ以テ縱ノ移動作業ニ從事ス敵砲撃 ^{（彈着）} 次第ニ兩艇附近ニ落下スルモ敵艦トノ距離九千乃至一萬米アリ
一三五六	第七昭和丸後部兵員室左舷水線附近ニ彈着アリ後部兵員室機械室ニ浸水ス
一三五九	第七昭和丸後部ニ傾斜沈下シ始メタルヲ以テ殘艇員ヲ退去セシム
一四〇〇	敵砲彈第七昭和丸煙突ニ命中次イデ同艇ノ艦橋ニ命中火災ヲ起ス
一四〇四	移動作業中途ニシテ第七昭和丸ハ敵砲彈中部兵員室附近ニ命中スルト同時ニ大爆發ヲ起シ沈没ス
一四一〇	第七昭和丸ノ乗員艦上十三艙機銃陣地ニ集結ス

一五二五	敵砲撃ヲ止メ南下ス い號米山丸竝ニ慶南丸攔坐炎上大破ス
二六〇〇	二七航戰司令部ト連絡成リ同部隊ノ區處下ニ入ル

一 第七昭和丸搬出書類

機密圖書暗號書大部（明細戰艦被害報告別紙參照）

殘餘ハ火災竝ニ大爆發ノ爲メ完全ニ燃焼セルコト確實ニシテ其ノ後カ
ツターニテ搜索スルモ流出シアラス敵手ニ渡ル虞ナシ

二 い號米山丸機密圖書暗號書完全燒却敵手ニ渡ル虞ナシ

四 令達報告

發日	元時	受日	宛（通報時）	令達報告等	種別
二一〇三		慶南丸第七昭和丸 第六雲洋丸	信電令第二號 一 第六雲洋丸ハ二十一日一四〇〇出撃硫黃島輸送ニ 從事 二 慶南丸及第七昭和丸ハ往復共之ガ護衛ニ任ズベシ	無	線
父島特根隊司令部		（横通硫黃島基地） （横領參謀長）			

[illegible]

二二一六〇〇 第七昭和丸艦長	二二一六〇〇 船團部隊指揮官	二二一〇八〇〇 第七昭和丸艦長	二三一一二五一 父島特根隊司令官	二三一一 第七昭和丸艦長	二四一 第七昭和丸艦長	二五一一一五〇 第七昭和丸艦長	二五一一一五〇 第七昭和丸艦長
二二一六〇〇 船團部隊	二二一〇八〇〇 父島特根隊司令官	二三一一二五一 第七昭和丸母島艦	二三一一二五一 第七昭和丸母島艦	二三一一二五一 第七昭和丸母島艦	二四一 第七昭和丸母島艦	二五一一一五〇 第七昭和丸母島艦	二五一一一五〇 第七昭和丸母島艦
出撃ヲ一日延期ス	い號米山丸排氣管故障修理中ニシテ完成時刻二四〇 示ヲ乞フ	い號米山丸船團二十三日一四〇〇母島ヲ出撃二十四 日〇九〇〇硫黄島着ノ豫定	米山丸ハ極力修理ヲ促進シ故障復舊次第硫黄島ニ 向ケ出撃セヨ	一七〇〇母島ノ二一〇度一五三ニ於テ敵ラシキ大型 二機ノ胸接ヲ受ク	〇七一五い號米山丸船團硫黄島着	敵ラシキ機十本見ユ基地ヨリノ方位二六〇度(司令 部ヨリノ情報)	第七昭和丸戰艦概報(一月二十四日) 一〇二〇硫黄島南泊地ニ於テい號米山丸船團對潜 泊地哨戒中、敵水上艦船(巡洋艦四艘、掃雷艇八)ノ
信 號	電 報	"	"	"	"	信 號	電

戦果及被害

(一) 戦果
一 ナシ

(二) 被害

第七昭和丸沈没、其船共一使用不能、
慶南丸、擱坐、炎上、大破、(使用不能)
い號、米山丸、擱坐、炎上、大破、(使用不能)
戦死者第七昭和丸、死傷者、(狂漢傷)五名、同右ナシ
負傷者同右、死傷者、(狂漢傷)五名、同右ナシ

功績

昭和二十年三月二十一日父島出撃以來敵哨艇ノ妨害ヲ排除シ幾多ノ
危険ヲ遭過シ、立シ俄、還歸國ニモ不拘無事、佐賀島南側地ニ到達、爲任務

父島特設隊司令官
横領長官

來襲ヲ受ケ中部兵員室附近ニ被弾、損鉢山ノ八〇度
〇、七五籽ニ於テ一四〇四沈没ス
被害 (1) 人員無事 (2) 船体沈没、前部弾火藥庫ニ引
火、爆發
機密圖書大部搬出其ノ他完全炎上、斷手ニ渡ル、廢ナ
シ乗員(六〇名)當處警備隊ニ收容(一名父特根
病室一名横病ニ移託入院中)

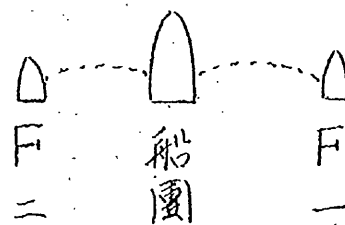
中計ラズモ敵水上艦艇ノ攻撃ヲ受ケシニ全員發憤積荷ノ大半ヲ揚陸セ
シメタル功績ハ大ナルモノト認ム

七 所 見

- 一 硫黄島輸送任務ハ輸送艦艇ニS.B.輸送艦使用スルヲ最良手段トス
- 二 硫黄島ニ於ケル揚陸作業ハ出來得ル限り同島在泊時間ヲ短縮セシム
- 三 味方艦艇行動狀況ハソノ大小ヲ問ハズ、船團ニ通報シ置クコト必要ナリ

(終)

1.5 軒 ~ 1.5 軒



第一警戒航行隊形



第二警戒航行隊形

父 息

1315 220/1220

望

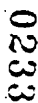
1324 琴碗射果開始

4015/3

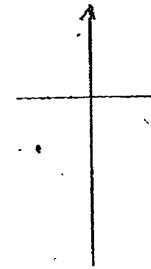
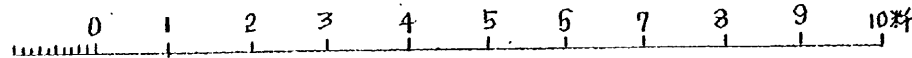
105

油
港

Try

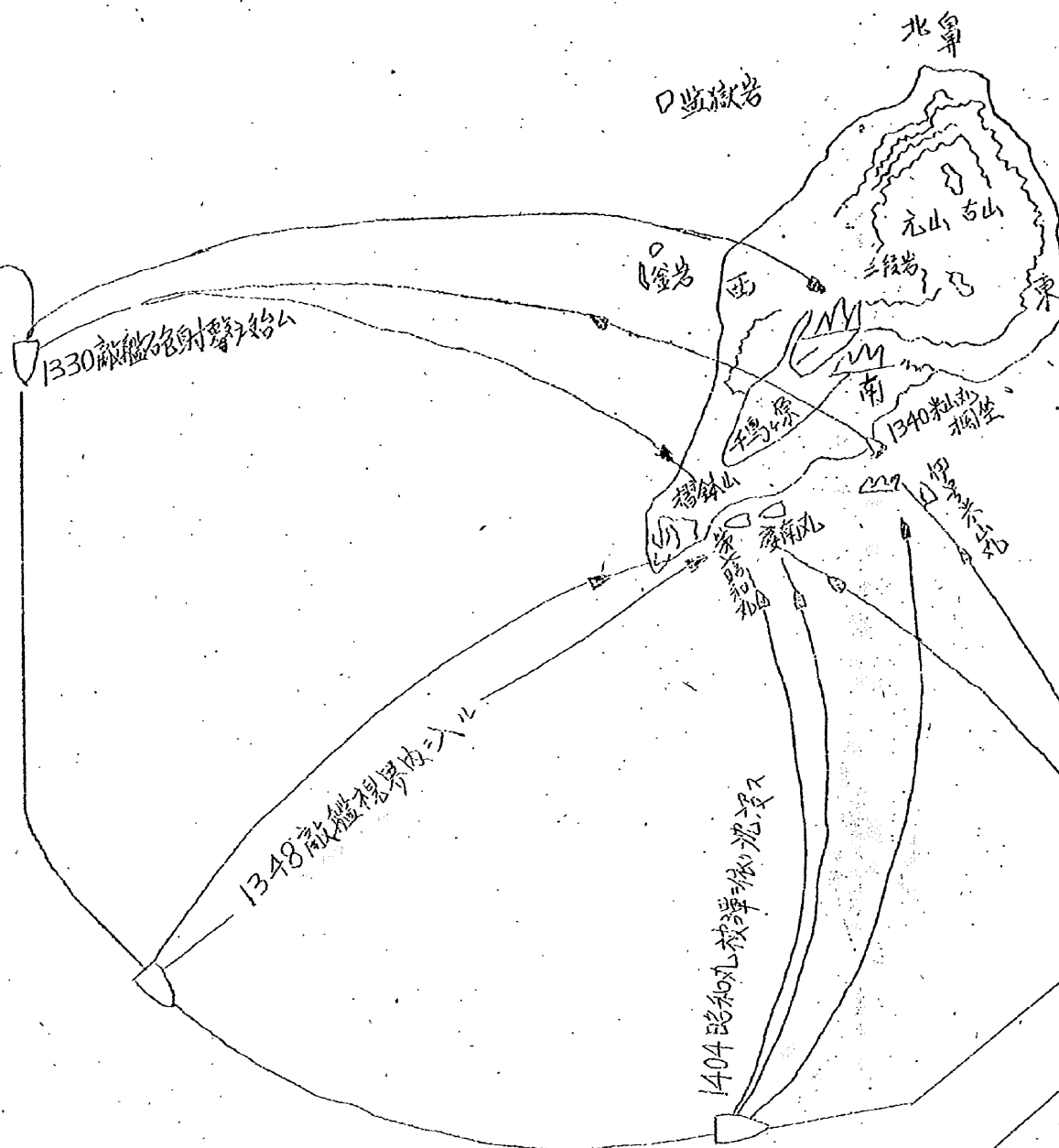


140



對空對水戰圖

東山



アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

0235

142

軍極秘

陸軍省防務課

横防機密第六七號ノ一ノ二九

昭和二十年三月二十四日

横須賀防備隊戦闘詳報第七四號

昭和二十年一月三十日 北ノ島西八湊ニ於ケル對空戦闘 第十拓南丸

横須賀防備隊

5
10

四月一日送付



目次	頁
一、形勢	一
二、計畫	一
三、經過	六
四、令達報告	九
五、戰果及被害	一三
六、功績	一三
七、所見	一四
八、戰死者名簿	一四

(目次終)

横須賀防衛隊新聞第七四號
昭和二十年一月三十日 北ノ島西八里ニ於ケル對空戰圖 第十拓南丸

一 形 勢

敵ハ短期決戰ヲ呼號シ我ガ本土ト南方資源地帶トノ邊斷ヲ狙ヒ多數ノ陸兵ヲ比島各地ニ揚陸シツツアル外「マリヤナ」飛行基地ヨリスル本土空襲本格化セリ、小笠原方面ニ對シテモ我ガ方ノ補給遮斷ヲ企圖シ大型機ノ來襲頻リニシテ敵潛又跳梁シ時ニハ硫黃島ニ對スル水上艦隊ニヨル艦砲射撃ヲ加フルニ至レリ

二 計 畫

昭和二十年一月二十四日横防戰信電令作第十一號ニヨリ左ノ艦隊ヲ以テ第三一二六船團ヲ編成サル、護衛隊第四七海防艦第五一號驅潛艇第五二號驅潛艇

第十拓南丸

船團 愛德丸 大昭丸 九州丸

一月二十五日 歸隊機 宿 第二五一六〇 希電ニ依リ 龍神丸ヲ 船團ニ加
入セシメラル

一月二十五日 歸隊機 宿 第二五一六〇 希電ニ依リ 龍神丸ヲ 船團ニ加

(イ) 航 程

一月二十六日 一〇〇〇 横濱發

一五〇〇 館山假泊

一月二十七日 〇六〇〇 館山出撃

三十 日 〇五〇〇 父島着

(ロ) 航 路

三一 二六 船團行動豫定概要

一 豫定航路

二十七日 〇六〇〇 館山發針路適宜

〇九二〇 一七〇度

正午位置 北緯三四度二〇分 東經一三九度四一、五分

ハ 三一六船團行動概要

航路

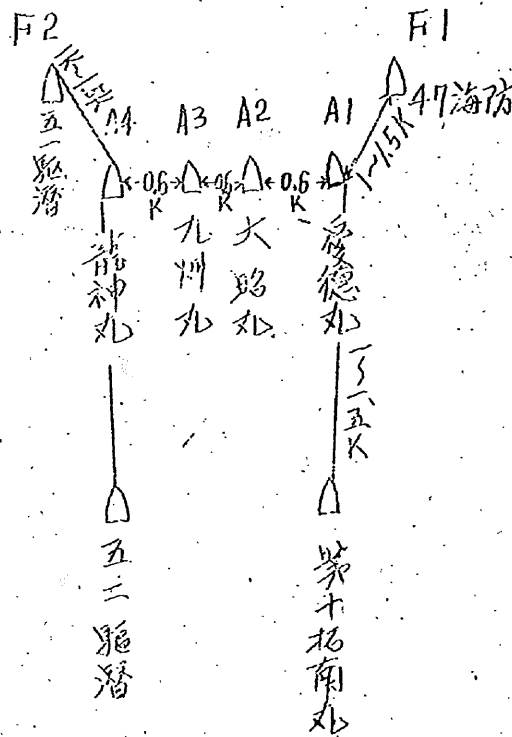
一月二十六日一〇〇〇横濱發 同一三〇〇館山假泊二十七日〇六
 〇〇同參針路適宜
 一〇二〇針路一八〇度正午位置北緯三四度二〇分東經一三九度四
 〇分
 二十八日一一二〇針路一七〇度

一五三五 一六八度
 二三〇〇 一八〇度
 二八日〇四〇〇針路一七〇度
 正午位置北緯三一度二九、五分東經一四〇度九、五分
 二〇三〇 一五二度
 二九日正午位置北緯二八度四八分東經一四〇度二四分
 三〇日〇三〇〇父島

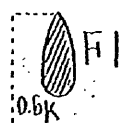
(二) 船隊隊形

第一警戒航行隊形

正午位置北緯三一度二九分東經一四〇度九分二一〇〇針路一六〇度
 二十九日正午位置北緯二八度四八分東經一四〇度二四分一〇〇針路一三八度
 〇〇針路一三八度
 三〇日〇〇〇〇針路〇度三四〇父島幸



第三警戒航行隊形



A1

A2

A3

A4

F4

F2

F3

F2

五二駆潜艇

A2

大昭丸

A3

九州丸

0.6K

0.6K

A1

愛徳丸

A4

龍神丸

1-1.5K

F1

四七海防艦

F4

第十揚南丸

兩船離速方七、二節

之字運動 船 國 第十七法

海衛艦 適宜航行

其ノ他細目ニ付協議ヲナス

三 經過

横防戦信電令作第十一號ニヨリ第三一二六船團ヲ編成父島ニ向ケ横須賀發艦衛任務ニ就ク

一月二十六日 ○九三〇横須賀發

一三〇〇館山假泊船團ニ合同

一月二十七日 ○六〇〇父島ニ向ケ館山出撃

幕後第二警戒航行隊形ヲ以テ列島線ニ沿ヒ南下二十八日二一〇五島島ノ

東五淵ヨリ針路一六七度ニ向フ二十九日正午位置北緯二八度四八分

東經一四〇度二四一分一七〇〇針路一三九度

二一〇八北緯二七度四五分東經一四二度〇〇分北ノ島ノ西約八淵一ヲ

南下中右舷ニ爆音ヲ聞キタルヲ以テ直ニ總員對空戰闘配備ニ就キ警戒ヲ

機ニシツツ護衛ヲ續行ス。當時天候暗風向北西風速十米ニ波浪三ウネリ三展望四氣壓七
 七〇耗月齡一四、九。二一三〇針路一七〇度二一三六再ビ右舷至近距離ニ爆音ヲ聞キタルモ當
 時満月ナリシニ拘ラズ事前ニ敵機ヲ認ムル能サリシモ右舷至近（三〇〇
 米）ヲ航過ノ際瞬時認メ得タリ。二二二〇右舷一五〇度極メテ低空近距離ニ爆音聞キ直チニ全機銃ヲ以テ
 射撃ヲ開始ス應戦セルモ敵機ハ投弾迄消音空中滑走セルモノノ如ク爆音
 聴取ト投弾ト殆ンド同時ニシテ離室後部兵員室入口爆雷砲台、右舷後部
 水線附近ニ被弾セル爲能取機械破壊蒸氣噴出し航行並ニ無線通信不能ト
 ナレリ第二次以後ノ敵機ヲ反撃スルト共ニ直チニ浸水箇所ヲ調査セルニ
 兩舷後部水線附近ニ各一箇所、右舷中部上甲板外舷窓リニ一箇所何レモ
 徑約四〇糎ノ破孔アリ、毛布、圓材ヲ以テ防水ニ努ムル一方蒸氣噴出ニ
 依リ動力使用不能ナリシ爲移動ポンプ、バケツ等ヲ以テ極力排水ニ努メ
 ツツ被曳式華金ヲトシタリ

二二四〇第二次來襲投彈不命中

二二四五第三次來襲投彈不命中

三十日〇二〇〇來撈中ノ第五三號驅潛艇ノ協力ヲ得テ曳航ヲ開始セルモ
 鋪鎖切斷ノ爲曳航不能トナリタルヲ以テ再ビ曳航準備ヲナシヨリシモ
 前記破孔竝ニ外飯一リベツト一ノ弛ミヨリノ浸水ノ爲排水及バズ危険ヲ
 認ムルニ至レリ、〇三二〇負傷者六名ヲ第五一號驅潛艇ニ移乗セシメ機
 密圖書類ヲ一括沈下シ尙排水ニ努ム

〇四三〇頃ニ到リ後部沈下ニ依リ上甲板ヨリ浸水シ船体次第ニ傾斜ヲ始
 メ沈没ヲ免ガレザルヲ確認セリ

〇四四五軍艦旗ヲ降下シ總員退去ヲ令シ乗員ノ約四分ノ三ヲ第五一號驅
 潛艇ニ移乗セシム

〇五〇〇遂ニ沈没セリ沈没後漂流セル乗員約一〇名ハ來撈中ノ第五一號
 驅潛艇第五二號驅潛艇ノ「カツター」二隻ニ救助サレ第五一號驅潛艇ニ
 收容其ノ後約一時間ニ亘リ驅潛艇二隻ハ附近ヲ調査セルモ異狀ヲ認メズ

〇九三〇本艇乗員第五一號驅潛艇ニ移乗ノ儘父島着

司令達報告

日	時	受日	宛 (通報)	令	達	報	告	等	種別
一、二、三、一、五、四、三	横鎮長官	二、三、一、一、六、〇、〇	甲直接護衛部隊 濱在、小笠原B 陸上防備B 大津口BBB	横鎮電令作第二〇號 甲直接護衛部隊指揮官ハ大昭丸(A)愛徳丸(A) 九州丸(B)ヲ以テ第三一二六船團ヲ編成シ之ガ 東京灣父島間護衛ヲ實施スベシ	無	無	無	無	無
二、四、一、一、七、五、〇	甲直接護衛B	二、四、一、一、八、一、〇	海防四七、艦潜五 一、五二第十拓南 丸	信電令作第十一號 一、大昭丸愛徳丸九州丸海防四七艦潜五一、五二第十 拓南丸ヲ以テ第三一二六船團ヲ編成ス 二、海防四七艦潜五一、五二第十拓南丸ハ前項船團 ノ東京灣父島間直接護衛ヲ實施スベシ 三、船團部隊指揮官ヲ第四七海防艦長ニ指定ス	無	無	無	無	無
二、五、一、一、六、〇、〇	横防戦参謀	二、五、一、一、六、三、〇	四七海防艦潜五一 艦潜五二第十拓南 丸	「當隊信電令作第一一號中第三一二六船團ニ龍神 丸ヲ追加セラル」	無	無	無	無	無

横領長官	二六一〇九一四	二六一〇九一四
横領長官	二六一〇九一四	二六一〇九一四
信電令作第十二號 一 第三一二六船團（商船四隻護衛艦四隻）二十七日〇六〇〇館山出撃列島線ノ東側ヲ接航父島ニ向フ速力七、二節 二 東京灣部隊指揮官及九〇三空館山基地並ニ八丈島基地各派遣隊指揮官ハ前項船團ノ警戒ヲ實施スベシ	二六一〇九一四 東京灣部隊指揮官 館山基地指揮官 八丈島基地指揮官 横領長官 横運 小笠原B 九〇三空 海上護衛サチ	二六一〇九一四 東京灣部隊指揮官 館山基地指揮官 八丈島基地指揮官 横領長官 横運 小笠原B 九〇三空 海上護衛サチ
線	無	線

父 三〇一四五二 A B G P	父 三〇一〇〇四 特 根 P	三〇一〇四〇五 第四七號海防艦	三〇一〇一四五 第四七號海防艦
三〇一四五二 GE口 横領口 横防艦P横GG	三〇一〇二四 横領 サチ 甲直Bト、横通 横運部長3AH口 館空基地八丈 島基地	三〇一〇四二五 父A6Gト甲直Bト 横領口海護總司令 部	三〇一〇一五五 父特根ト 甲直Bト横領口 海上護衛總司令部
第十拓南丸遭難状況報告 一月二十九日二二二〇N二七度四五分E一四二二 度〇〇分ニ於テB25三機來襲「ロケット」砲彈 (推定)五發ノ發射ヲ受ク内一發ハ船体中央外	第三一二六船團〇九〇五父島着	本艦機密第三〇〇一四五番電關聯聯潛五一ヨリ 左ノ電アリタリ 第十拓南丸沈没ノ處アリ至急來援ヲ乞フ 我直ニ急行尙三一二六船團〇三三〇父島着	二十九日二二二〇N二七度四五分E一四二二度〇分 (北ノ島附近)ニテ敵編隊機ノ爲第十拓南丸後 部兵員室ニ被弾シ舵機故障航行不能トナルモ今 ノ處浸水ナシ墮落五二ヲシテ父島ニ曳航セシム 尙墮落五一ヲシテ之ガ護衛ニ任ゼシム船團ニハ 被害ナシ我之ヲ率ヒ父島ニ向フ
無	"	"	線

(横 廣 瀬)

舷側甲板より雷艇一隻浮上、出更ニ三發後
部兵員等甲板ノ貫通内一發ニテ艦底ニ破孔ヲ生
ズ爲ニ後部兵員等ヨリ逐次被破艇ニ浸水行動不
能トナル此ノ間〇二〇〇頃ヨリ第五二驅潜艇曳
航開始セルモ鎗鎖切斷爾後救難ノ見込ミ立タザ
ル爲〇四〇〇頃ヨリ同船ノ短艇ニテ乗員ノ退去
ヲ開始後艇長以下六名在艇中〇五〇〇沈没セリ
機密圖書竝ニ替類ハ夫迄發ニ朝ノ重錘ヲ附シ確
實ニ沈下セシム人員ノ被害戰死一名行方不明一
名重傷三名輕傷二名

二 戰訓所見

昨今富方面夜間行動ノ暗滅機中ニハB二五ヲ相
當數含メアルコト確實ニシテ同機ハ小型「ロケ
ット」砲ヲ使用シアルコト略確實ニシテ正横後
ヨリ消音低空近接シ發射後「ロケット」推進類
似ノ特殊裝置ニ依リ急速ニ離脱ヲ圖ル傾向アリ
特設艦艇及硫黃島方面同ケ機送船ニ至ル迄機銃
砲台及主要部配置ノ乘員防護屑防彈板裝備及防
彈衣配付考慮ノ要アリト認ム

第四一三〇船團愛德丸大昭丸九州丸護衛艦第四七
海防艦五一號五二號驅潜艇三六日二三〇父島發

無

線

六 功 績

昭和十九年七月十八日申直接護衛部隊ニ編入以來敵機激迫ノ跳梁下ニア
リテ連續作戰ニ敢闘シ船團護衛父島方面ニ進出ノ魚雷艇曳航或ハ各部作
戰密與ノ爲荒天下ノ氣象觀測等ニ從事シ克ク其ノ任務ヲ完遂セリ又本戰
闘ニ於テハ艇員一同克ク艇長ノ命ニ從ヒ沈没ニ至ル迄其ノ配價ニ在リテ

其 戰 果 及 殺 害

(イ) 戰 果 一 一 ナ シ

(ロ) 被 害

第十拓南丸沈没（兵器共）

戰死二名（下士官一名兵一名）

戰傷（下士官二名兵三名軍屬一名）

三〇一二三四
父 特 根 ト三〇一二三四
横 鎮 參 謀 長横 鎮 參 謀 長
防 空 隊、父 島 航
空 基 地

鳥島附近迄列島線ノ東側ヲ接航爾後西側ヲ北上三
日一〇〇〇州ノ埼通過ノ豫定九州丸屑鎧六五噸（
横 鎮）拾貳第十拓南丸乗員四十六名分乗（第四七
海防隊入院患者四名内要坦三名英靈一柱）

線

七所 見 奮戦シ各々任務ヲ達シ功績大ナルモノト認ム

(一) 月明ト雖モ敵機ノ視認極メテ困難ナリ空中滑走状態ニテ來襲機ニ然リ故ニ夜間電探ナキ艦艇ニ於ケル敵機トノ交戦ニ於テハ全機銃ヲ四方ニ向ケ置キ見張ニ全力ヲ盡スト共ニ察音聴取ト同時ニ射撃ヲ開始セバ敵機ノ投彈ヲ狂ハシ撃墜ノ機ヲツカミ得ルモノト信ズ

(二) 本戦闘ニ於テ船團ヲ襲撃セズ隊形ノ右後方ニアリシ護衛艦艇中對空兵器最モ劣弱ナル本艇ノミニ來襲セルハ集中射撃ヲ恐レタル結果ニシテ高高度爆撃不可能ナル夜間ニ於テハ船團隊形ヲ極度ニ緊縮シ船團ノ全兵器ヲ以テ集中射撃ヲ浴ビセルノ要アリ

ハ戦死者名簿

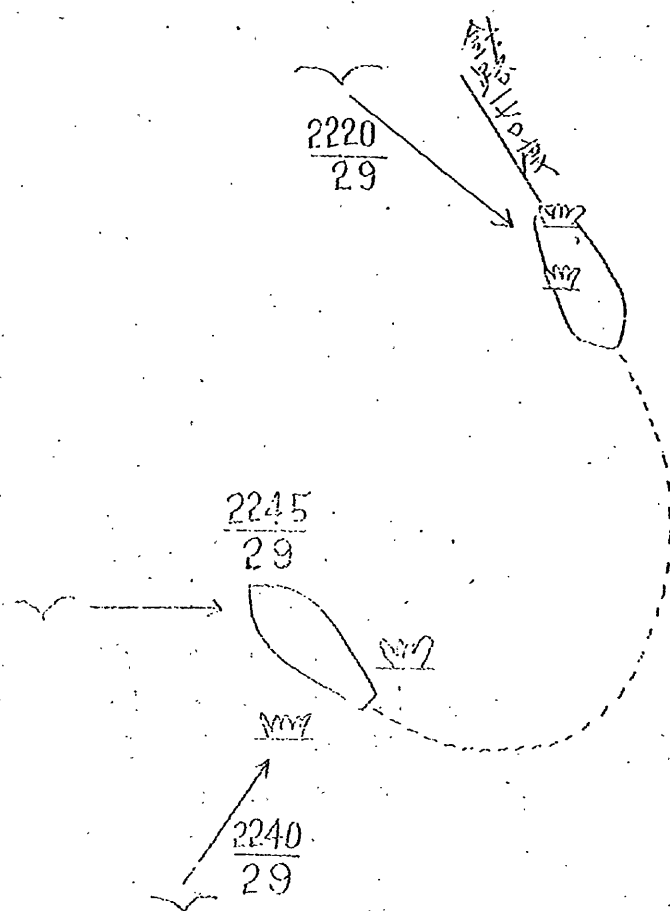
官	職	氏	名
一等兵曹	宮	崎	光三
一等水兵	若	泰	榮喜

(終)

1920

150

九合戰圖



天候
風浪
視界
一北
西
三四米

2920

151

軍機秘

海軍省
功績調査部
海軍省功績調査部
昭和二十年二月十九日

横防機密第六七號ノ一ノ四

昭和二十年二月十九日

横須賀防備隊戦闘詳報第五〇號

横濱港附近ニ於ケル
自昭和二十年二月十六日
至昭和二十年二月十八日
戦闘掃海

横須賀防備隊

5

1 2

月

日送付



一、形勢	二、計畫	三、經過	四、令達報告	五、成果	六、功績	七、戰訓
------	------	------	--------	------	------	------

目

次

頁

一	一	四	五	五	六
---	---	---	---	---	---

(目次終)

横須賀防備隊戦闘詳報

横濱港内ニ於ケル 自昭和二十年二月十六日
至昭和二十年二月十八日

戦闘掃海

一 形勢

敵機動部隊硫黄島方面ニ近接シ本土空襲ノ兆候アリシ處二月十六日ニ至
リ果然京濱地區ニ對シ大空襲ヲ行ヒ横濱港内ニ機雷敷設ノ疑濃厚トナル
ニ至レリ尙引續キ空襲ノ算大ナルモノアリ

二 計畫

別紙横防機密第一七號ノ二二ノ計畫ニ依ル

三 經過

(1) 經過摘要

(一) 準備

日時	記事
二一六 一四〇〇	横防戦信令第一號ニ依リ横濱港内磁氣掃海ノ命令ヲウク

時刻

記

種別	指揮官	使用兵力	使用兵器	記
掃海艇	古藤尉	第一小隊 東盛丸 明神丸	三式掃海具二型	一、監視艇ハ主トシテ空襲時ノ新タナル敷設ノ有無ヲ監視シ掃海ハ行ハズ
警戒處分艇	森中尉	第二小隊 幸神丸 第三發	水中處分具	
監視艇	佐中	第三哨區 第四大發	三式掃海具二型	
	長曹	第四哨區 第五大發		
	橫濱基地	第五第六大發		

(四) 使用兵力 敵二兵器

二月十八日
一八四五 掃海開始（第一小隊二區、第二小隊二區）
二四五 所定掃海面掃海完了處分機雷ナシ、人員兵器異狀ナシ
一四四五 第一曳船ヲ率ヒ横濱發
一四五 第一曳船浦賀着

4 司令達報告

日 時	受 日 時 (通報)	令 達 報 告 等	種 別
二一六一四〇〇 横防戦司令官	二一六一四〇〇 横防司令 (横領參謀長 濱 在)	横防戦信令第一號 横濱港内ニ敵機雷敷設ノ疑ヒアリ 横防司令ハ速ニ艦艇ヲ派遣シ航路及泊地ノ機雷ヲ 極力掃海スベシ 派出シ得ル艦艇數及出發時刻報告通報スベシ	電 話
二一六一四二〇 横防司令	二一六一四二〇 横防戦司令官 (横領參謀長 濱 在)	派遣艦艇數 五 隻 出發時刻 一五〇〇	"
二一七一九三〇 掃海部隊指揮官	二一七一九三〇 横防司令	一〇ハ三〇ヨリ第二小隊掃海開始ニ至ル空襲アリ 一時掃海ヲ中止ス 一三〇〇翌晨掃海解除トナリ一三三〇ヨリ第一第 二小隊ヲ以テ重要海面ノ掃海ヲ實施ス 本日掃海ニ於テ處分機雷ナシ 明日ハ未掃海面ノ掃海ヲ實施ス	"

5.

二一八一三 四三 掃海部隊指揮官	二一八 横 防 司 令	一〇八三〇 第二第二小隊掃海開始 一二四五 所定掃海面掃海完了 二 處分機雷ナシ 三 人員兵器異狀ナシ 四一五〇〇 空襲ナケレバ第一曳船ヲ率ヒ浦賀ニ向 ケ横濱發ノ豫定 横防戰信令第一號所定掃海完了 處分機雷ナシ
五 成 果 (一) 所定掃海面内ニ公浮流機雷、磁氣機雷、緊維機雷ノ發見誘爆拘捉セルモ ノナシ (二) 所定掃海面ハ水深一〇米乃至二〇米ニシテ海底拘捉ノ機會モ少ナク順 當ニ所期ノ目的ヲ完遂セシメタリ (三) 既掃平面圖別紙ノ通 六 功 績 敵機ノ頻繁ナル爆撃下ニ敢然トシテ横濱港内航路竝ニ泊地ノ掃海ヲ實施	横 防 司 令 (横鎮參謀長 在)	横 防 司 令 横防戰信令第一號所定掃海完了 處分機雷ナシ
	”	話 電

七 戦訓

シ一兩日ニシテ横濱港内ノ出入港禁止ヲ解クニ至ラシメ所期ノ目的ヲ完
遂シタル關係員ノ功績ハ顯著ナルモノアリト認ム

掃海ノ實績ニ鑑ミ主ナル所見左ノ通

(一) 三式掃海具二型ノ浮標索長ハ適宜水深ニ應ジ伸縮スルヲ可トス

(二) 浮標索ハ掃海索中間ニ更ニ一條追加スルトキハ海底拘提ノ機會ヲ少ナ

クシ且拘提時ノ離脱容易ナリ

(三) 三式掃海具二型ノ曳航ハ大發ノミニテハ風潮時ハ容易ナラス少ナク共

一隻ハ二〇噸級(漁船ニテ可)ヲ配スルヲ可トス

(四) 横濱港内ハ水深二十米以内ナリシモ之レ以上トナレバ揚収相當困難ア

リ一隻ハ場貨機付船艇タルヲ要ス

(五) 横濱港水路ノ如キハ線桿敷設ニ依リ通電掃海適當ト認ム

(終)

別紙
橫防機密第一七號ノ二二

昭和十九年十二月五日

橫須賀防衛隊司令 緒 方 勉

東京灣航路磁氣機雷掃海計畫

一 方 針

敵機ハ本土空襲頻繁トナリ東京灣内ニ磁氣機雷ヲ敷設セラルル算ナレルヲ以テ東京灣航路ヲ設定シ警戒監視ヲ嚴ニスルト共ニ隨時掃海ヲ實施スルノ外敷設ノ疑濃厚トナリタル海域ノ徹底的掃海ヲ實施ス

二 東京灣航路並ニ掃海、監視區分

(イ) 東京灣航路 別圖

(ロ) 掃海及監視區分

第一區 鋸山西方海面ヨリ第二海堡ニ至ル東水道海面

第二區 第二海堡ヨリ橫須賀港及橫濱航路並ニ木更津錨地航路海面

第三區 橫濱港ヨリ東京港ニ至ル航路海面
監視並ニ掃海部隊ノ糧餉配備及任務分担

(4) 編輯

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp/>

記事

- 一 掃海船艇ハ二十噸級掃海船二十隻（新徴用）四隻ハ十五KW直流發電機ノ裝備船艇（驅特）トス
- 二 大發ハ適時掃海ニ協力セシム
- 三 自一小隊ハ適時哨戒ニ協力セシム
- 至六小隊
- (四) 空襲時ノ特別配備
- (一) 掃海船艇ハ防空警報ニヨリ全直配備ニ就クノ外左記ヲ特別配備ス
- 第一區指定ノ掃海特務艇又ハ驅潛特務艇
- 第二區指定ノ驅潛特務艇
- (二) 浦賀在泊ノ掃特及驅特ハ警戒警報發令ニ依リ艇名ヲ指定シ所定錨地ニ就キ監視警戒ニ任ゼシム又特令ニ依リ第二警戒配備ニ依リ右ノ配備ニ就カシムルコトアリ
- (三) 特別配備信號法ヲ左ノ通定ム
- 防空警報エ引續キ艇名錨地番號（十位ヲ略ス）ヲ信號ス

(ハ) 陸上見張所ノ設定並ニ警戒監視

第一區島嶼會衛所、茨生、觀音崎、第二海墜、伊勢山崎各見張所

第二區羽田鼻(新設)島嶼會衛所、新設、各見張所

第三區見張所ニ、下士官兵二名ヲ配シ、横濱駐在武官將又ハ東京駐在武官

府ヲ經由電話連絡並ハ軍場ニテ連絡ス

(ニ) 監視警戒艇ノ任務

(一) 哨區附近ノ監視警戒ニ任ジ敵機ニ依ル敷設ノ阻止撃退並ニ嚴重ナル

見張ヲ行フ

(二) 敷設ヲ發見セバ機ヲ逸セズ該附近ノ敷設位置ノ北二〇〇米ヲ標準ト

スニ位置浮標ヲ設置友軍ニ通報ス

(三) 常時配備ノ監視艇ハ隨時掃海隊ヲ編成ス

四 掃海實施要領

(イ) 掃海ノ終始ハ特令ス

(ロ) 日旣掃海ハ敷設ノ疑アル場合各擔任區域航路ノ實施ヲ豫前トシ特令

- ニ依リ區域ヲ指定シ聯合實施セシム
- ハ敷設ノ疑濃厚ナル場合ハ右ノ外使用可能限度ノ懸特及弊害監視艇ヲ以テ臨時ニ掃海隊ヲ編成シ指定區域ノ掃海ヲ實施ス
- ニ各艦ニ掃海指導員ヲ派遣ス
- ホ機雷ノ處分發火ニヨリ直チニ位置設標ヲ行ヒ敷設線ヲ判定ス
- ヘ繫維磁氣機雷ヲ拘捉セルトキハ淺海面ニ曳航符令ニ依リ銃撃又ハ水中處分具ニ依リ爆破處分ヲ行フ
- ト故障ニ對スル處置
- 一海底障害物ニ拘捉セルトキハ直チニ停止狀況ニ依リ位置設標ヲ入レ反轉揚收ス
- 二掃海艇故障ノトキハ掃海ヲ中止非番艦ト交代掃海ヲ續行ス
- 三担任水路ニ機雷敷設セラレタル時ハ直チニ危險標識ヲ附近ニ入レ更
- 新水路ヲ啓開ス
- 見張ヲ嚴重ニシ浮流機雷ヲ發見シタル時ハ前項ニ準ジ處分ヲ行フ

使用兵器ノ準備

(イ) 掃海具及處分具

(一) 三式掃海具二型

三〇組（各艇一組豫備若干）

(二) 試製磁氣掃海具

適宜

(三) 水中處分具

五組

(ロ) 位置標識（赤方旗附）

四〇組（各艇二組）

(ハ) 航路標識（籠）

附）二〇組（設標艇各艇一〇組）

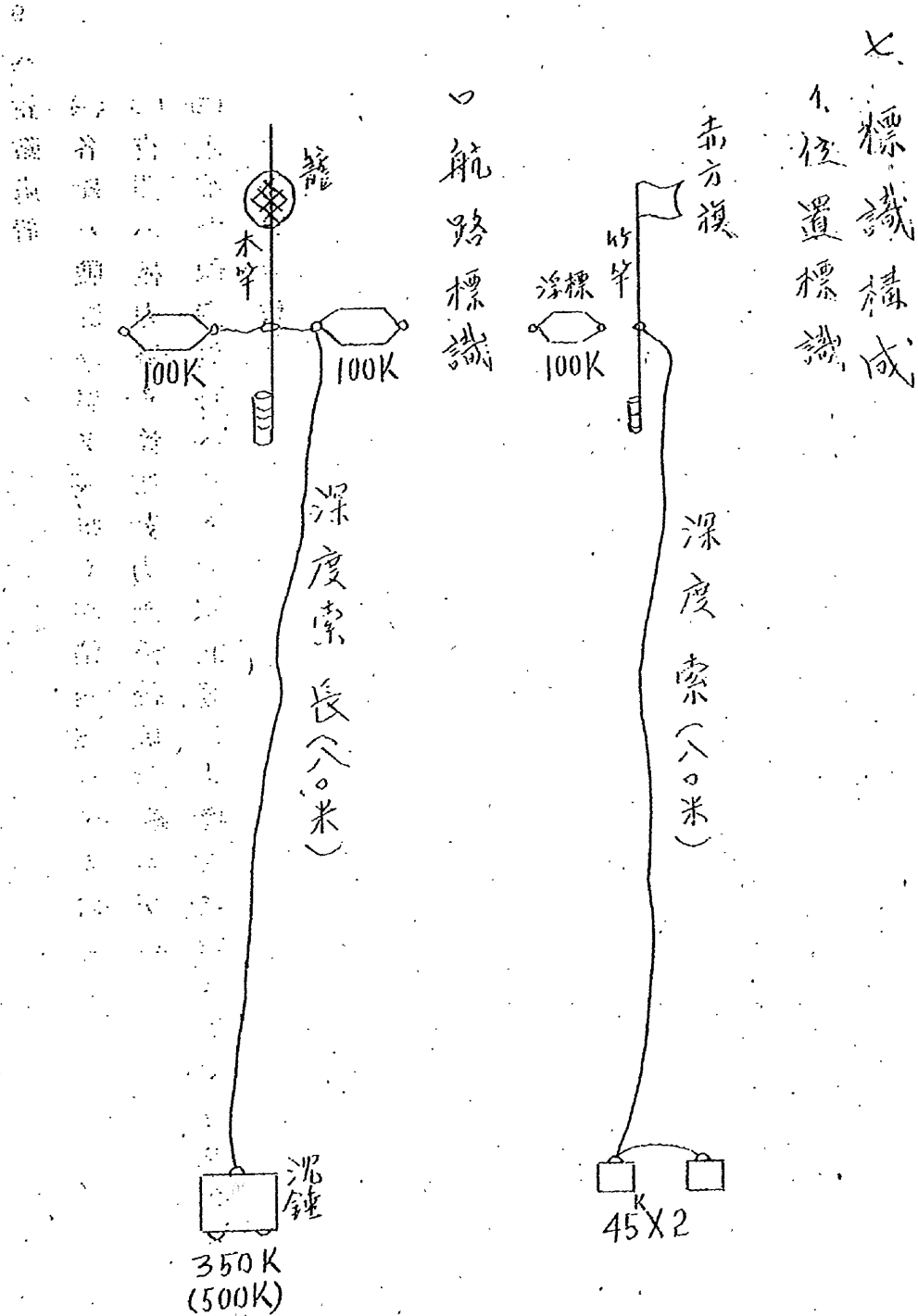
(ニ) 小銃彈藥包共

一〇〇挺（各五挺）

(ホ) 特製號火（松明式）監視艇各一個

海	掃	路	航	常設	區分	掃海具種類別	索長	掃速/實速	對距/有効幅	掃海具構成
二〇噸級 二隻	一〇〇噸級 一隻		二〇噸級 漁船二隻		假製磁氣掃海具	曳索長 一五〇米	四 三	120 100	100トンの船	ニートン船
					三式掃海具二型	曳索 二〇〇米 掃海索 一二四米	5 3、5	90 70	減深度 トス	ニートン船
						電磁縮線 四〇〇米			90m	磁針 36本

六 掃海諸元 掃海具調定諸元

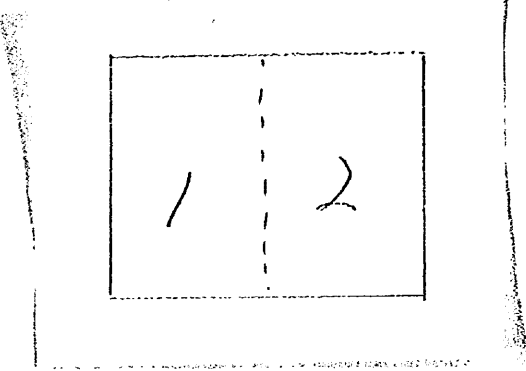


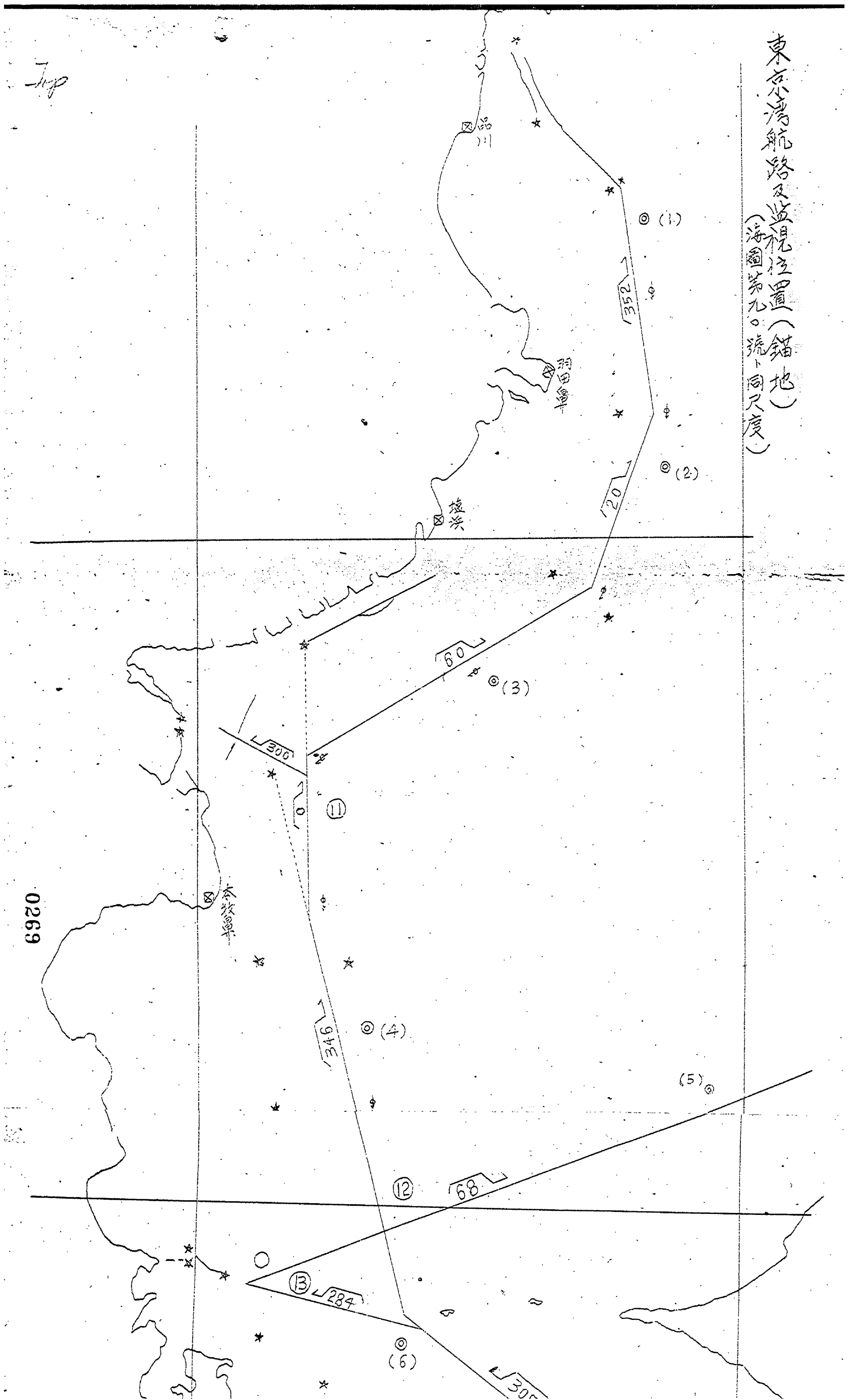
ハ 對敵處置

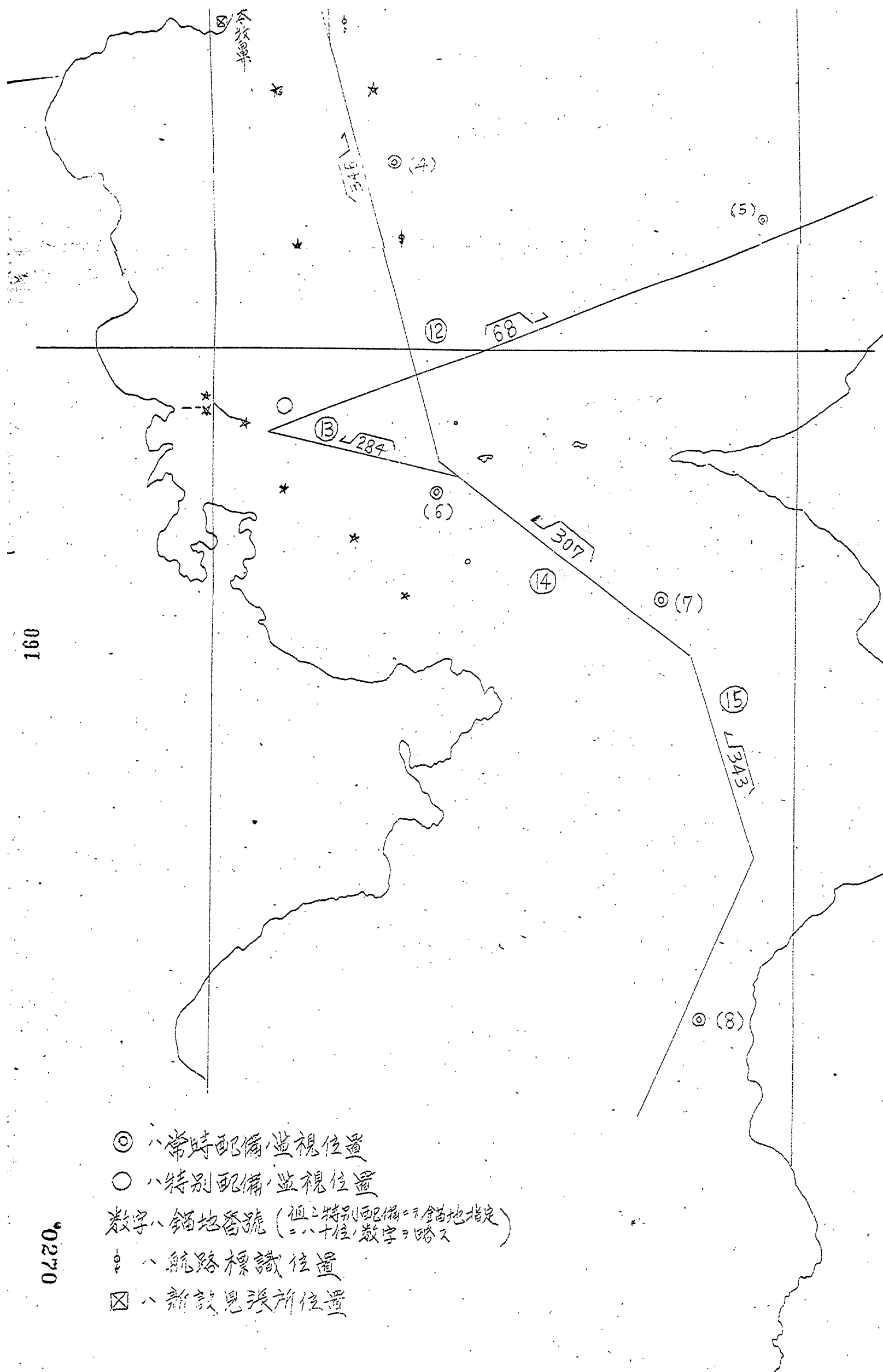
- (一) 各艇ハ戰鬪準備ヲ完成シ對潛對空警戒ヲ嚴ニス
- (二) 夜間ハ極力燈火管制光力調整淡煙運轉ニ努ム
- (三) 哨戒中敵發見時ハ直チニ報告通報シ敢然攻撃ニ轉ズ掃海中ハ指揮官ノ所信ニ依ル

(終)

分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	
分割撮影 した 理 由	A3判以上のため
上記のとおり分割撮影したことを 証明する 62年 / 月 23 日 主務者又は 撮影立会者 金沢悦夫 (国) (印)	

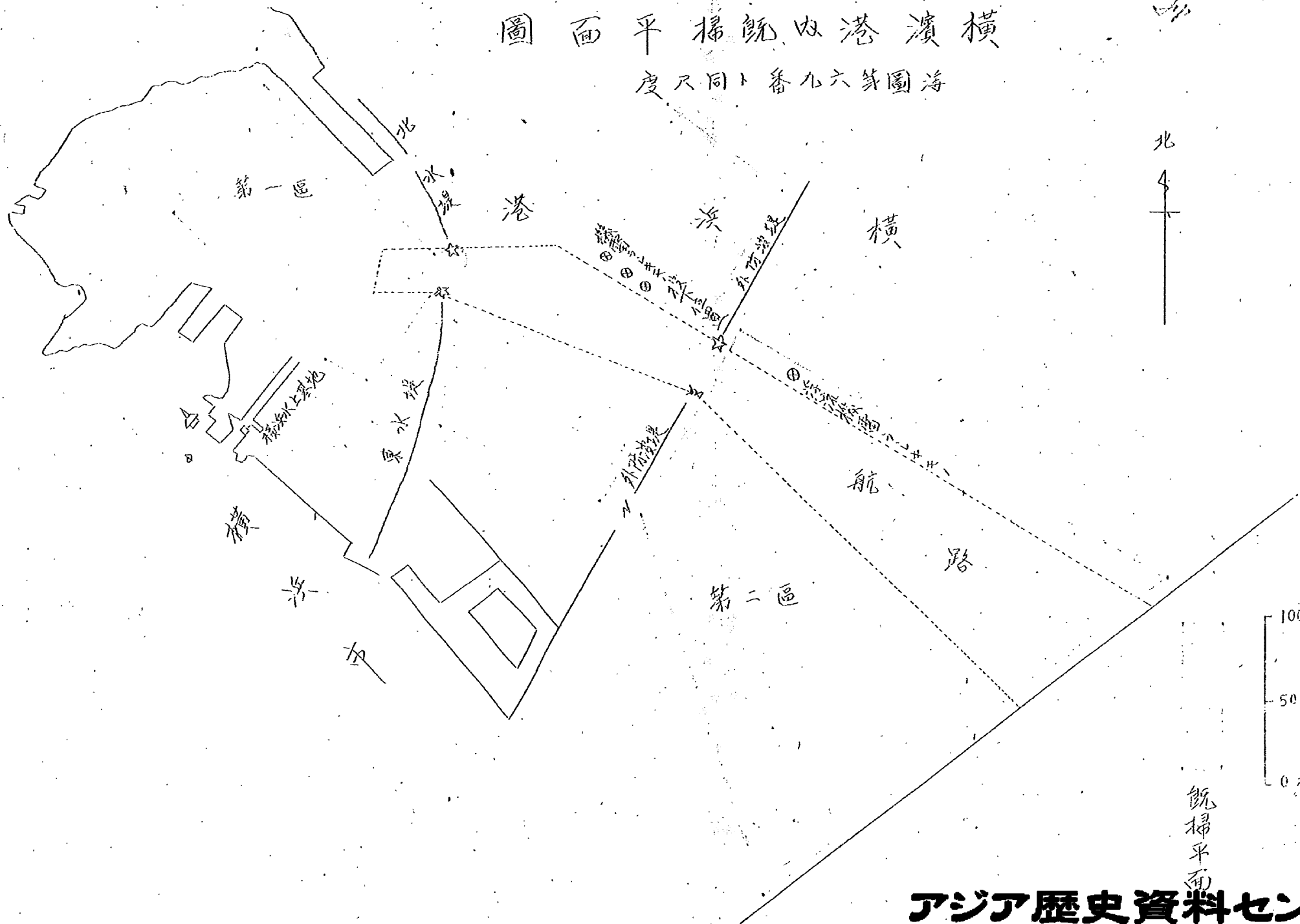




- ◎ 常時配備監視位置
 ○ 特別配備監視位置
 数字 錨地番號 (但ニ特別配備ニ錨地指定ニハナシ数字ヲ略ス)
 ・ 航路標識位置
 ☒ 新設見張所位置

横濱港内既掃平面圖

海圖第六九番ト同尺度



既掃平面